

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習Ⅰにおける過去の実践を検討・評価・改善する一連の流れの中で、保育士に必要な知識・実践知を再確認するとともに、保育実習Ⅲで求められるより高い専門性を養って行く。具体的には、1.子どもの発達に応じた保育上の配慮に関する講義、2.保育実習Ⅰの実習記録・指導案の評価と改善に関する演習、3.改善された指導案に基づいた模擬保育、4.実務経験者から現場で活用された教材などを基に子どもの遊びや安全指導の理解、5.現場の保育者との交流等を通じて、今までの学びの集大成として保育所での最後の実習を実りあるものとし、より専門性の高い保育士となるための一助とする。保育園等にて保育業務に携わる知識・技能と実践について深く学ぶ。

授業計画

第1回	ガイダンス(保育実習Ⅰと保育実習Ⅲの違いについて)
第2回	保育実習Ⅰにおける成果評価と課題発見
第3回	保育実習Ⅰにおける実習日誌の見直しと改善1（子どもの活動・姿）
第4回	保育実習Ⅰにおける実習日誌の見直しと改善2（保育者の援助・配慮）
第5回	保育実習Ⅰにおける指導案の見直しと改善（異年齢保育の設定）
第6回	模擬保育にむけた指導案作成(グループワーク)
第7回	模擬保育実施1（製作活動等）
第8回	模擬保育実施2（運動遊び等）
第9回	保育所長の講演（予定）及び視聴覚教材を活用した保育の学びを映像から読み解く
第10回	模擬保育の結果評価・考察と指導案の改善
第11回	実習日誌の配布と実習開始までに必要な手続きの確認(健康診断書・細菌検査・オリエンテーション時の対応等)
第12回	子どもの発達に応じた保育のあり方1（保育課程、年間指導計画、月案、週案、日案）
第13回	子どもの発達に応じた保育のあり方2（冬の保育の配慮事項と小学校への接続）
第14回	保育実習Ⅲ直前指導（責任実習へ向けて）
第15回	保育実習Ⅲ最終直前指導(自己課題の設定、園への提出物やその他準備物など)
第16回	保育実習Ⅲ事後指導(自己評価/報告書作成/グループディスカッション)

※外部講師を招聘して講演会を聴講する場合もある。計画表等は授業内にて周知する。

到達目標

1. 子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶことができる。
2. 過去の実習での課題を踏まえ、保育実習Ⅲでの実践に発展的に繋げて行くために、既存の知識を確認しながら模擬保育等を通じて保育実践知をあげることができる。
3. 実務経験者や保育所所長から保育所の役割や機能、保育士の職業倫理について具体的に学ぶことができる。

履修上の注意

- ・保育実習Ⅲ(保育所)を履修予定の学生は必修である。
- ・保育実習に準ずるものとして、遅刻・欠席等は原則として一切認められない。
- ・書類・課題等の提出は必ず期日を守る。
- ・実習を挟んだ授業展開のため、開講スケジュールは変則的になる場合がある。授業内および掲示板での告知を各自で確認すること。

予習・復習

予習として配布資料の予告された箇所を授業前までに通読すること。
当該テーマのより良い理解のために、授業内で紹介する参考文献や資料による復習をすること。

評価方法

授業内への取り組みの姿勢(20%)、提出物や発表の内容等(80%)から総合的に評価する。

テキスト

- ・教科書名：『保育所保育指針（平成29年告示）』
- ・著者名：厚生労働省/著
- ・出版社名：フレーベル館/編
- ・出版年（ISBN）：9784577814239

必要な資料は授業内にて配布する。

